

## 人間生活における健康

富山県農村医学研究会

会長 豊田文一

印度の医典チヤラカ本集に「無病とは、これ善業、愛欲、解脱の最上根本なり」と述べている。まことに健康であることは、あらゆる幸福の源であるばかりでなく、それ自体最大の喜びである。

人間の生活してゆく上に色々の欲求がある。これを三つに分別すると第一次欲求、これは①死なないで生きてゆくこと、②病気や怪我をしないこと、③飢えない。すなわち生存に必要なことである。第二次欲求、これは、④就職の安定、収入がふえる、⑤近代文化の活用、⑥自由、すなわち消極的満足のために達成が必要、第3次欲求、これは、⑦何ごととも達成できる能力の獲得、⑧能力、個性を生かす、⑨人の役に立つ。すなわち積極的満足のため必要である。ここにあげた第一次欲求は、人間生存のため不可欠な条件で、これを基盤として第二次、第三次の欲求がでてくる。

ご承知の如く、1948年WHOは、健康とは、身体的にも、精神的にも、また社会的にも調和のとれた状態で、単に身体が弱いとか、病気でないとかではないとされている。この定義に基き、すべての人類は、最高度の健康が

保障される権利があるとしている。しかし、旱魃（カンバツ）や洪水のためアフリカや南アジアでは、幾千万の人々が餓死し、飢餓に喘いでいる。世界的視野にたてば、WHOの定義は、理想であっても、現実には極めてきびしい。わが国は、国際的にみて、あらゆる面で優位にたっていることは事実である。

私どもは、本研究会創立以来17年、農村の健康管理と取り組み、会員各位とともに孜々として努力を続け、かつ関係方面のご援助をえて、成果を挙げてきたと信じている。

しかし、農村における社会環境は、急速に変貌しつつあり、これに対応して、私どもの研究分野も拡大せねばならないことと思う。とくに農村社会学の観点にたつての、研究の分野に入りこまねばならないのではなからうか。そのためにも冒頭に述べた第一次欲求はもちろん、第二次、第三次の欲求を達成させるため農村の人々、また農村社会と協力して、新しい方途の展開に力を注ぐ必要があろうと感じている。

ここに卑見を披歴して会員各位のご意見、ご批判を乞う次第である。